

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.62 (秋号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

2015 年 10 月 15 日発行

当会の HP・<http://iidalaw.net/norikura.html>

秋の環境講演会を行います！！

講師：小泉武栄氏

『日本の山はなぜ美しい』 ～飛騨山脈を語る～

講演会の講師は、小泉武栄氏（日本ジオパーク委員会顧問）。1948 年長野県生まれ。東京学芸大学名誉教授、理学博士。専門分野は自然地理学、地生態学。「知的登山」の提唱者で、山の自然学講座や野外観察会の実践者としても知られ、多方面で活躍中。

「山の自然学」（岩波新書）、「日本の山はなぜ美しい」（古今書院）、「登山と日本人」（角川書店）など著書多数。

豊かな野外活動、研究に基づいた先生の知見・自然学の具体的なお話に接すれば、自然を見る目に一大変化が訪れるはずです。又とない絶好の機会、是非ともお出かけください。

日時：11 月 15 日（日）午後 2 時～

場所：丹生川支所 2F ホール

もっと乗鞍岳のことを知ろう [その3]

木下喜代男

飛騨側登山道(登拝路)の盛衰2

前回の北、西側に引き続き、南側の登山道を地図(ルート図2)で見えていただきたい。



⑤青屋道

明治28年旧朝日村青屋の修験者上牧太郎之助が、九蔵本谷と小俣谷の間の尾根に4年かけて大日岳まで約20kmの登拝路を開削。その後沿道の88箇所石仏2体ずつ176体を安置した。

<登山口=青屋 距離19.9キロ 登り6時間・下り4時間>

⑥上ヶ洞道

今は上ヶ洞から塩沢を経て子の原高原へ自動車道がついているが、それまでは上ヶ洞から黍生集落、石仏山の肩を経て上ヶ洞牧場(今はない)を通り千町尾根に出た。江戸末期の嘉永2年(1849)地役人山崎弘泰他14名が乗鞍に登っているが、この時のルートはこの上ヶ洞道だと言われている。

<登山口=上ヶ洞 距離13.7キロ 登り5時間・下り3時間>

⑦野麦道

野麦集落の人が乗鞍へ登拝した古くからの道。集落背後の尾根を忠実に辿り、原生林の中を右に岳谷の大滝を見ながら登る。上部で高天ヶ原の左に出て大日岳のコルから剣ヶ峰へ。

<登山口=青屋 距離11.8キロ 登り5時間・下り3時間>

⑧岩滝道(前号ルート図1参照)

この時点(昭和6年)では難路の表示になっている。昭和8年から、岩井集落を起点として日影平、丸黒山、千町ヶ原を経て乗鞍岳までの山岳スキー場が開発され、随所に山小屋も建てられた。(『く

らがね通信』59号・60号参照) この時登山道も大八賀村の村民や斐太中学の生徒などの協力で千町ヶ原まで全線改修された。

< 登山口 = 高山 距離 30 キロ 登り 1 日・下り 1 日 >

■登山道のその後の変遷と現在の様子

このように戦前多くの道があった乗鞍岳だが、戦時中つけられた陸軍航空技術研究所の自動車道が戦後バス道路になって簡単に入れるようになり、「観光の山」になってゆくと登山道は次第に廃れていった。それでも昭和 63 年飛騨山岳会が創立 80 周年を迎え、乗鞍岳への記念集中登山を行った時にはまだいくつかの主な登山道は健在だった。

この時期旗鉾からの赤川新道はすでに廃道になっていたが、日影平口、子の原口、阿多野口、野麦口からはしっ



かりした道が残っていた。会員が各ルートにわかれ、道を整備しながらいくつかの新しい道標を建てて登り、頂上に集結して付近を清掃した。その日は肩の小屋に宿泊して記念の大宴会を行い、翌日全員で金山道(平湯大滝道)を、5ヶ所に道標を建てながら下った。(この時の道標はまだ随所に残っている。)これらの道はその後さらに通る人が少なくなり、山麓の過疎化で登山道の手入ができなくなったこともあって、廃道化はさらに進む。

旗鉾口

「赤川新道」は、昭和 40 年頃までは登山者があり地元で手入れをしていたが、その後間もなく廃道になり、今では藪に埋もれてしまっている。「平湯峠道」(花園道)も戦後バス道路の開通と共に廃れたが、その一部が上部でスカイラインとして残っている。

平湯口

歴史がある「金山道」(平湯大滝道)は、前述のように昭和 60 年代まで通れたが、その後大雨で上部が流されて通行不能となり、廃道になった。その代わりに、平湯スキー場から平湯尾根を辿り、金山権現へ至る⑪「平湯・乗鞍新登山道」がつけられた。この道は毎年平湯の人々により手入れがされているので、今では北西面から乗鞍へ至る唯一の登山道になっている。豊平まで 11.6 キロ、7 時間、往復 12 時間を要する。

「安房峠道」は、筆者も昭和 50 年代乗鞍岳から十石山、安房峠、平湯まで歩いたことがあるが、その後十石山から金山岩の間が崩壊したりして今では廃道になっている。

阿多野口

「野麦道」は近年手入れができず廃道になってしまった。

上ヶ洞から黍生経由の「上ヶ洞道」は、その後阿多野集落から林道経由の道、⑫「阿多野道」にルート変更されている。阿多野集落からの道は歩きやすいが、近年手入れが十分とはいえない。平成 11 年、筆者が真谷を遡行して千町尾根から阿多野へ下ったときは、上部がだいぶハイマツに覆わ

れ、下部も部分的に笹の刈り払いがされていなかった。

昭和 30 年代には中洞集落から子ノ原牧場を通り、奥千町へ出る道⑬「**子の原道**」も紹介されている。現在の無印キャンプ場あたりに車を置いて短時間で千町尾根に到達できるルートだったが、近年地主都合で閉鎖され、だいぶ笹が覆っている。

そして「**岩滝道**」は、日影平から丸黒山までは大丈夫だが、それ以降は近年「青少年の家」が使用しなくなったこともあって手入れがされていない。筆者は平成 24 年に丸黒山南斜面を歩いたが、木のステップが腐食し、鉄釘だけ残っていてたいへん危なかった。

「**青屋道**」はその後廃れ、石仏も大部分が埋もれてしまっていたが、平成 13 年旧朝日村が村おこしで道の復興、石仏探索を開始し、これが高山市になった今も続けられている。毎年何体かが発見され、祠などに安置されている。筆者は去年の夏、徳河谷をつめて千町ヶ原下部のこの道に出て青屋まで下ったが、下部には巨木の樹林帯があり、御嶽山も見えて、歴史を感じさせる道だった。道は毎年手入れがされているようだが、なにせ距離が長くて通る人がほとんどいないため、



かなりの部分的には笹が覆っていた。

そして今年 8 月 8 日～9 日、石仏探索の会に参加して剣ヶ峰から青屋登山口まで歩いた。頂上から奥千町避難小屋までは久しぶりだったが、ハイマツが登山道を大部分覆ってしまっており、道が完全に隠れてしまうのは時間の問題だと思った。今年は避難小屋から三角点のある標高 1885.5m までは笹が刈ってあったが、ここから下部は刈ってなく、登山道が判然としない部分が多かった。

■まとめ

以上 2 回をまとめると、現在難なく歩けるのは地元で毎年手入れをしていただいている平湯スキー場からの⑪「**平湯・乗鞍新登山道**」、その次は多少の藪漕ぎがある南面の⑫「**阿多野道**」と⑤「**青屋道**」の 3 本だけということになる。

道というものはその時代々で盛衰があることは世の常でありやむを得ないとはいえ、信仰の山乗鞍への歴史ある道がこのように次々と消えつつあることはまことにさみしいことだ。遠からず自動車道のスカイラインだけになってしまうのであろう。しかし、自動車道があっても豪雨による道路決壊、火山災害の時などの緊急避難路として、一本くらいはしっかりした登山道を残すことが必要であると思う。

これは**行政まかせ**でなく、たとえば当「乗鞍岳と飛騨の自然を考える会」、「飛騨山岳会」などが**協力して維持**をしてゆくといいのではなかろうか。この対象になるのは「**阿多野道**」くらいか。

本稿の執筆にあたり、旗鉾口の登山道については小笠原昌一さん(高山市上川原町)からいろいろとご教示をいただいた。

<参考文献>

『丹生川村史』、『山刀 24 号』(飛騨山岳会)、『飛騨風物記』(上島善一)、『乗鞍嶽の栞』(乗鞍嶽興風会)

※ 4 回にわたって掲載してきました「もっと乗鞍岳のことを知ろう」は、今回で終了です。筆者の木下さんには長期間にわたり執筆して下さりまことに有り難うございました。木下さんの提言にある「行政まかせでなく」という言葉に重みを感じます。

「御嶽自然観察会」 7 月 9 日

中島輝雅

今回の自然観察会は、もともと乗鞍岳の阿多野郷ルートの予定でしたが、6 月 20 日の下見の結果、阿多野郷から大勢で登るのは難しいということで、代替案として胡桃島から御嶽飛騨頂上を目指すルートに変更されました。

道の駅に朝 6 時集合、心配された天気は何とかもちそうな感じです。乗り合わせて胡桃島キャンプ場に向かい、キャンプ場入口手前の駐車スペースに車を置き、いよいよ出発。

歩きだすと、しっとりとした常緑針葉樹林の森を進みます。ただ、木道が湿っていて滑りやすくてちょっとヒヤヒヤしました。

苔むした登山道沿いには、ゴゼンタチバナやイチヤクソウ、エゾシオガマ、ギンリョウソウなどが咲き、緑鮮やかなコケのマットとともに息が上がった体をちょっとだけ癒してくれます。

二時間ほど登ると、濁河温泉からの登山道に合流。濁河からは結構な登山者が登ってきていました。登るうちに雨が降ってきて、最初は小降りだったのがだんだん本降りに。山の天気はやはりわかりませんね。

やがて、メンバーの中で体調不良で先に下山したいと申し出があり、みんなで話し合った結果、雨も止みそうにないので下山することに。

雨の中の下りでは、水滴をまとったコケが一層きれいに見えたことと、フタバランにも出会え、森林限界にもたどり着けませんでした。充実した山行となりました。また、道の駅に降りてくると下界では雨が降っておらず、変わりやすい山の天気について再認識した機会となりました。

皆様、お疲れ様でした。次は、天気のいい時に飛騨頂上を目指しましょう！



アサギマダラマーキングの会 9 月 6 日

松崎茂

今年も恒例のアサギマダラマーキングの会を開催しました。

当初は 8 月 30 日の予定でしたが、雨で急きょ 1 週間延期、9 月 6 日に行いました。

当日も、空模様のハッキリしない中「道の駅朝日村」を出発、鈴蘭峠に到着しました。峠に着

いても気温が低く日も射さない悪条件のため、参加者は前日に講師の鈴木さんが捕獲してくれておいたアサギマダラを分けてもらい、それに各々マーキングしました。マーキング後放蝶すると、アサギマダラは羽をヒラヒラ優雅に空高く登って行きます。

前日から三角に折った紙片に挟まれていた蝶が、マーキング後は何事もなかったかのように飛んで行く様子を見て、驚き感動すら覚えました。

放蝶後参加者は各々捕虫網を手に林道に入って、いよいよアサギマダラを探しに行きました。が、やはり日差しがなく気温も低くアサギマダラは出てきませんでした。

そのうち雨が振り出し残念ながら午前中で中止とし、「道の駅朝日村」まで戻り昼食をとった後、鈴木さんから蝶の標本を見せてもらいながらの「蝶のプチ講義」を聴きました。

講師の鈴木さんには、何度も現地に足を運んでいただき、下見や前もってアサギマダラを捕獲して下さったりと、大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。来年は天候に恵まれた楽しいマーキングになることを期待して……。



■ 会員を募集しています！ 年会費＝個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円

あなたの知人、友人に入会をおすすめてください

・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第号(号) 2015 年月日 発行

発行者 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

ホームページ・<http://iidalaw.net/norikura.html>

TEL: 0577-32-7206・FAX: 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者: 松崎 茂

E-mail: ponykun0428@hidatakayama.ne.jp TEL: 0577-34-4703

表紙写真提供: 小池 潜

印刷: アドプリンター